

大崎市民病院を受診された患者さんへ

当院では下記の研究を実施しております。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の間合せ先にお問い合わせください。

情報の利用停止を希望された場合でも、治療に影響が出ることはありませんので、安心してお申し出ください。

No.624

研究課題名	リウマチ性多発筋痛症（PMR）における再発予測因子の同定および免疫抑制薬の有効性に関する検討
当院の研究責任者	所 属 : リウマチ科 氏 名 : 渡部 龍
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	リウマチ性多発筋痛症(PMR)は65歳以上の高齢者に突発的に発症する肩甲帯、骨盤帯の疼痛と朝のこわばりを主徴とする炎症性疾患です。PMRの治療は通常ステロイド（プレドニン）15-20mgが著効しますが、難治例に対しては他の免疫抑制薬の併用が考慮されます。症状が再燃するケースは約半数で、再燃率は高いですが、併用する免疫抑制薬の有効性に関する報告はわずかで、エビデンスが極めて不足しています。 本研究では、PMR患者の臨床的特徴（身体所見、採血データ、悪性腫瘍の既往の有無など）から、再発に関する予測因子を明らかにすることを目的としています。また、再発時に用いた免疫抑制薬の有効性を比較検討することも行います。
対象者	2011年4月1日から2019年4月1日までに、大崎市民病院リウマチ科で通常診療が行われたリウマチ性多発筋痛症（PMR）患者
調査データ 該当期間	西暦 2011年4月1日 ～ 西暦 2019年4月1日
研究の方法 (使用する試料等)	①上記の期間、当院においてPMRと診断した患者について、臨床的特徴（身体所見、採血データ、悪性腫瘍の既往の有無、側頭動脈炎と合併の有無など）と再発の有無を後方視的に検討し、統計学的手法を

	用いて再発に関する予測因子を明らかにします。②悪性腫瘍合併症例については、悪性腫瘍の種類や悪性腫瘍の発症時期、PMRの発症時期についての前後関係等について解析します。③当院のPMR患者においてプレドニン単独で治療した群の再燃率、他の免疫抑制薬を併用した群の再燃率、また免疫抑制薬の種類による再発率を比較検討します。
使用する試料等	診療カルテのみ
試料情報の他の研究機関への提供および提供方法	学会発表や論文作成を検討しております
個人情報の取り扱い	個人が特定されるような情報は取り扱いません。
本研究の資金源（利益相反）	ありません
お問い合わせ先 （照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先）	住所：大崎市古川穂波三丁目8番1号 電話：0229-23-3311 研究責任者 大崎市民病院 リウマチ科 渡部 龍
備考	